

地域おこし協力隊

6名が着任

原村への移住のきっかけであり、それぞれの経験やアイデアから村の活性化が期待される「地域おこし協力隊」。これまで村では数名ずつ協力隊員が活動してきましたが、今春は6名が着任しました。その取り組みは「結婚活動」「ふるさと納税」「地域福祉」「滞在型観光」「移住・定住」「スポーツ」と多岐にわたります。

着任したばかりの隊員に集まってもらい、現在感じている原村の魅力や可能性、それぞれのミッションに対する思いなどを語り合ってもらいました。

2023年3月オープンのコワーキングスペース！

WORK SPACE 原村

営業時間(夏季)
午前9時～午後8時(平 日)
午前9時～午後6時(土日祝)

原村 17217-1625
☎ 0266-75-2704

<https://8coworking.com>



地域おこし協力隊とは

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を目指していくことを目的にした制度です。



熊田 洋子 隊員



鈴木 若菜 隊員



小泉 肇 隊員



岡本 康利 隊員



西 由美 隊員



伊良原 裕子 隊員

点と点が線につながれば。

熊田 原村に来て、私は嫌いだっただけトマトが食べられるようになりました！

伊良原 それはすごい！！

熊田 トマト農家さんと摘み放題を体験させていただいたのですが、食べてみたら「あれ？ これまで食べていたトマトと全然違う」と思っています。

小泉 野菜がおいしいですね。レタスを食べたら、甘いし食感がまったく違いました。

東京にいた頃は食卓に乗るサラダの量はちょっとだったのですが、こちらに来てからは毎食大盛りで野菜を食べるようになりました。

熊田 新鮮な野菜が身近にあるのがとても嬉しいですね。

西 私はアパレルの専門学校で学んでいたのですが、当時は「大量生産・大量消費」という時代でした。「大量の洋服を仕入れて、それを販売する」という世界観にちょっと違和感を覚えるようになり、これからどんなふうな仕事をしていこうかと考えました。いろんな経験をする中で「食に関わる機会があり、興味を持っていろいろ探ってきた結果、「農業や「自給」が身近なものになりました。

岡本 西さんが地域おこし協力隊で取り組まれているのは？

西 私のミッションは「ふるさと納税の返礼品の発掘」です。現在原村の返礼品は種類が少ないようです。返礼品の種類が増えることで、色々な方から関心をいただけるようになればと考えています。

鈴木 具体的に考えていることはありますか？

西 村内の事業者と協力して「体験型の返礼品」といったものがないかと考えています。

鈴木 私も「体験型」にはとても可能性があると思っています。

伊良原 鈴木さんのミッションは「滞在型観光の推進」ですね。

鈴木 現在の観光の課題として、原村は通過点になってしまう傾向がありそうです。「蓼科や「清里」といった著名な観光地へ行く途中に原村に立ち寄り、みたいな。原村には素敵な人も多くいますし、素敵な場所もありま

たくさんいて、魅力的な「点」はたくさんあると思っています。点と点を線につなげることができれば、と考えています。

伊良原 それはすごくよくわかります。

鈴木 原村が好きなのは、お気に入りの宿や場所に毎回来ると思います。でも知らない人はこれまで目に触れる機会がなかったのではないかと、と思うと発信の必要性も感じます。「線」でつなぐ横のつながりも、パイプ役ができたなら地域の魅力がより伝わっていくのかなと思います。

トマト農家さんにお話をうかがうと、「こんな思いで野菜をつくっているんだ」「こんな苦労があるんだ」と驚くことがたくさんあります。そんな背景を知ることができたら、「観光」と「暮らし」がつながるきっかけになるかと思っています。

熊田 通過ではなく、ここに滞在してもらうために何かアイデアはありますか？

鈴木 たとえば子ども向けに「自然体験」の機会が提供できれば、さまざまなものに触れてもらえるのではないのでしょうか。子どもだけで数日過ごすといった方法もありそうですし、家族で訪れてもらうといった可能性もありそうです。

西 なるほど。だから「体験型」がキーワードなんですね。

鈴木 「30代女子」をターゲットにした体験プランも考えてみたいです。アウトドア初心者や「火起こしってどうやるの？」「自然の中でどんな遊びができるの？」「どんなことに気を付けたらいい？」などのレクチャーを受けながら、実体験できる機会があったらいいのではないのでしょうか。キャンプして、翌日ハイキングして、もみの湯に入って…といったプランが考えられそうです。自然の中に身を置くことやその時間の流れ、星の美しさな

ど、実際に触れて体験していただければその良さが伝わると思います。

熊田 星を見ながらのヨガとか、いいですね！

身近な人たちと、仲間たち。

鈴木 私が原村に来て驚いたことは、昼の休憩時間に皆さん自宅に帰って昼食を摂られることです。今まで自宅近所で働いたことがなかった中で、通勤1時間となれば朝お弁当をつくって持っていくのが日常でした。こちらでは通勤時間が短いですし、昼も自宅に戻るので時間に余裕があってありがたいですね。

伊良原 そして皆さんの距離が近いんですよね。「誰かのことを聞いたら誰かにつながる」のを感じています。職場で会話をしているとその「近い感じ」がわかります。福祉分野の支援においても、それは強みになっていると思います。これからは、そこに対して自分がどれだけ参加することができるか、一緒にやれるかが大事だと思っています。

熊田 協力隊の面接に来たとき、役場入口に「泥を落として入ってください」と書かれていて驚きました(笑)。長靴で役場に立ち寄られるのも地域性ですね。

岡本 そんな地域で、熊田さんのミッションは？

熊田 結婚活動支援です。地域おこし協力隊のミッションとしては珍しいようで、他の地域おこし協力隊の方からも驚かれます。

鈴木 現在の原村の結婚事情はどのように見えていますか？

熊田 登録者が少ないと思います。周囲の目が気になるからでしょうか。登録するにしても「役場に行く」となると仰々しいので、ふ



くまだ ようこ
熊田 洋子 隊員

結婚活動支援

千葉県浦安市（前職はテーマパーク勤務）から移住。特技は「いつでも笑顔でいられること」。



にし ゆみ
西 由美 隊員

ふるさと納税返礼品発掘

東京都国分寺市から夫とともに移住。コーヒーへの思い入れが深く、カフェ開業を目指す。



いはら ゆうこ
伊良原 裕子 隊員

地域福祉の推進

兵庫県神戸市から移住。8年前に社会福祉士資格を取得。夫婦で山に登るのが一番の楽しみ。

らつと立ち寄れる、気楽に参加できる場所で、婚活のイベントができたらいいなと思います。

小泉 村内で「結婚したい」という声はきかれますか？

熊田 意欲はあるけれど「登録はちょっと」というケースがあるみたいです。登録はしなくてもいいから気楽に参加できる機会がつけられたらと思います。場所も原村の外に設けた方が参加しやすいかもしれません。

小泉 反対に、周辺市町村の方をこちらに呼び込むことも考えられますね。

熊田 そうですね。「地元の目が気になる」「ほかの市町村のイベントだったら参加する」といった傾向がうかがえるので、これらをヒントにできればと思います。

鈴木 具体的に考えているアイデアはありますか？

熊田 「何かをやっているとき」というのは、「この人と一緒に生活する」という姿がイメージしやすいと思います。ステンドグラスをつくるとか味噌づくりをするとか。「一緒に作業する」という機会ができればいいな、と考えています。

西 岡本さんが取り組むのは「地域スポーツ振興」ですね。

岡本 はい。今は「答えない時代」じゃないですか。子どもたちがこれから生きていく中で何が大事かと言ったら、耐性であったり、創造性であったり「内発性の動機」といったものが求められると思います。そういったと

きに身体を動かすことが大切だと思います。これらの力は身体を動かすことによって活性化されるはずです。現代の子どもたちは身体を動かすことが少ない（中学の男子生徒で約100分、女子生徒で約70分。もっとその機会を増やせばと考えています。子どもたちが元気でいれば、周りのお年寄りたちも元気になるっていくと思います。

鈴木 私は「仲間がいてよかったな」と実感しています。夜に部屋にハチが入ってきてしまったことがあったんです。自分ではどうすることもできなくて、ベランダから部屋をうかがっている状態でした。協力隊の先輩に連絡したら、その先輩が網を持って駆けつけてくれ、さらに小泉隊員も来てくれました。これまでの生活では職場同僚というのは近所にはいませんでしたし、助けを求めるとい

うことは近所にはありませんでしたし、助けを求めるとい

とも考えませんでした。こんなに協力して暮らせていられることは、ありがたいなとしみじみ感じました。次回ハチが入ってきてき

きつと小泉隊員が来てくれると思うので大丈夫です（笑）。

小泉 捕虫網を買いました（笑）。

原村でみんな、ずっと。

伊良原 この1ヶ月の間に職場でいろんなお裾分けをいただきました。山で穫れたタラの芽やウド、ホウレンソウ、お子さんが釣ってきたというニジマス。実は前任隊員の「ご近所さんから野菜をいただく」エピソードに憧れていました。こんなに短期間にいろいろなものをお願いできて驚いています。原村は食文化が豊かであると同時に、お裾分け文化も豊かだなあ、と感じました。

小泉 タラの芽は我が家にも分けていただいたのですが、妻がとても喜んでいました。

熊田 小泉さんのミッションは「移住・定住促進」ですね。

小泉 具体的には「体験住宅の運営」と「空き家活用」が主なテーマになります。体験住宅

をお願いされたら嬉しいですね。それをきっかけに空き家バンクへの登録につながると最高です。

西 伊良原さんは地域福祉のミッションですね。原村の地域性や特色をどのように感じていますか？

伊良原 地域の同士の仲がいい。でも、ガツガツ行き過ぎない。私が住んでいた関西との比較かもしれませんが（笑）。お互いに節度を持って、相手を尊重して、互いに気を遣えるバランスがとても素敵だと感じています。

小泉 伊良原さんのミッション（福祉で「協力隊だからこそできそうなこと」）はありそうですか？

伊良原 いろいろ考えられます。一つは私自身が移住者なので、その目線で考えられること。地域の事情や土地柄などこれまでの生活との違いはいろいろ感じますが、どれも私には新鮮で。知ることがとても楽しいです。しかし「困っていれば助け合」こういった部分は一緒だと思つので、そんな思いのなか感じたことを活動の中で徐々に発信していけたらいいなと思います。それから地域おこし協力隊の横のつながりも生かしたいです。私は福

豊かな自然と実りの中で。

小泉 晴れた休日には山に出かけます。ゴールデンウィークは青年小屋にテントを張って、編笠山と権現岳に登りました。

伊良原 私たち夫婦も山が大好きなのでこれからたくさん登りたいです。こちらへ来てからは守屋山と八子ヶ峰に登りましたが、どちらもとてもよかったです。

鈴木 お二人に感化されて、私もゴールデンウィークに入笠山でハイキングデビューしました。これまで山には全然縁がなかったのですが、どんどん興味が湧いてきました。これからいくつかの山を登ってみて、いずれは阿弥陀岳に登ってみたいです。

小泉 岡本さんは、山は登られますか？

岡本 好きですが「山男」というレベルでは



すずき わかな
鈴木 若菜 隊員

滞在型観光の推進

神奈川県逗子市から移住。子どもの発達を支援する会社で子どもたちと向き合ってきた。



こいずみ はじめ
小泉 肇 隊員

移住・定住の推進

埼玉県和光市から妻とともに移住。前職はインテリアデザイン事務所で図面を描いていた。



おかもと やすとし
岡本 康利 隊員

地域スポーツ振興

大阪府東大阪市から移住。メーカーと商社38年の営業職を経て、地域おこし協力隊員に。

ありません。富士山には3回登りました。

小泉 ハケ岳はきつと富士山よりきれいですよ。

岡本 日帰りが可能なコースもあるみたいですね。楽しみに調べてみます。

伊良原 いいですね！

熊田 私はすっかり生活スタイルが変わって、かつて住んでいた千葉が「遊びに行く」場所になりました。千葉では夜中でも救急車が走りますし、トラックが通ると家が揺れました。今は静かな夜にカエルの声が聞こえるくらい。だから、毎日睡眠の質は100パーセントです。本当に癒された時間を過ごせています。

伊良原 職場のご縁から畑を借りることができて、有志の協力隊で野菜づくりにも挑戦します。先日はジャガイモを植えて、今週はトウモロコシを蒔く予定です。

熊田 収穫が楽しみ！採れすぎたらどうしましゅう…今度は私たちがお裾分けできるかな？

伊良原 まだ芽も出ていないけれど（笑）。



先輩隊員に聞く

今後の展望



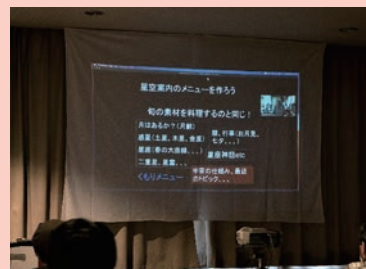
——星空観察イベント×宿泊——

イベントを通して「星を見ること」と「宿泊」は切っても切れない関係だと痛感。原村に泊し、満天の星空を楽しんでいた。機会を増やしたいです。



——星空撮影ワークショップ——

村の事業者の方や住民の方が、SNSやサイトを通じて星の魅力を自ら発信し、村全体で原村の星空を全国に広めていける形を作ってみたいです。



——星空案内人資格の取得——

着任1年目に、星空の魅力を案内する技術を身につける資格「星空案内人（星のソムリエ®）準案内人」を取得。今年は一段階上の正案内人の資格に挑みます！

星空観賞会を毎晩開いている野辺山のホテルに宿泊したことがきっかけで星好きに。原村の星空に日々魅了されながら、SNSでの星空の情報発信や星空観察イベントの企画・実施などに取り組んでいます。

むらさわ ゆみ
村澤 有美 隊員（3年目）

協力隊ミッション：「星降る里ブランドの推進」担当

東京都出身。ぬいぐるみメーカーで10年以上デザイナーとして勤務したのち、移住。趣味は、自然中心の写真撮影や絵を描くこと、バレーボール。



——さき織り等のブランド化——

古着を捨てずに裂いて新たな布を創るサステナブルな取り組み。普段使いする製品やブランドロゴの制作などを通じて、村の小さな産業としての発展を目指します。



——美しい村の発信拠点の整備——

村の遊休施設を自ら改修（DIY）し、美しい村の紹介や全国マルシェの開催など、住民・観光客が集まる場へと有効活用することを目指します。制作過程はSNSで発信中。



——地域づくりリインターン企画——

地域づくりに興味ある大学生数名を呼び、若者視点で提案を行う企画を今夏に実施予定。村の関係人口の創出による将来的な移住促進につなげる。



「日本で最も美しい村」の推進を担当しています！ ぼろ機織り・さき織りのブランド化をはじめ、発信拠点の整備、特産品づくり、全国との連携などに取り組みます！

うちだ まさひろ
内田 将大 隊員（2022年9月～）

協力隊ミッション：「日本で最も美しい村」の推進

東京都出身。一級建築士。ゼネコンで都市開発の仕事に約7年間従事した後、毎年訪問するほど馴染みがあった原村に昨年9月に移住。趣味は登山、ゴルフ、ジャズ。